2015年上半期 ①「311　有志」支援活動報告（簡素版）

３１１　有志
世話人　齋藤大介

《2月11日 第4回被災者支援会議 》

「カフェ・ド　クリエ渋谷桜丘スクエア」（渋谷区桜丘町 31 - 15 渋谷桜丘スクエア 1F.）にて開催。

①第４回支援者会議

開場４時４５分　午後５時開始～５時４５分終了
（参加料１０００円　ソフトドリンク+菓子付き）

５時開催。２０名の参加者のうち、半数近くは、初参加。第３回までの参加者の中には、体調不良などで欠席も相次ぐ中、よくぞ集まって頂いた。ただ、今回は会場を借りる条件から、４５分の短時間。そのうち、３０分は、お互い知らない同士なので、自己紹介に費やす。中でも、埼玉県内の各地に分散して、または孤立して避難している町の人々を訪ねては、悩みや要望などを聴く浪江町復興支援員の挨拶は、貴重な話。多くの避難中の浪江町民は、周囲の コミュニティにも馴染めず、「賠償金もらっていいな」と揶揄され、傷ついている、と。「浪江町から来ました」と言ってアパートに入ったら、2時間、泣かれながらの話を聴いたことも、と先日も言っていた。
さて、会議の本題は、最後１５分で走りながらの、２０１４年活動報告、２０１５年度支援活動方針の説明。資料を渡し、「東北の仮設で暮らしている方々の「生の声」だけを収録したので、それだけは後で読んでください。」でおしまい。

②映画「日本と原発」開場５時半　午後６時上映開始～８時１５分終了

（鑑賞料８００円）

先日、ＤＶＤで「日本と原発」が到着。そこで、早速、カフェ閉店後、大型スピーカーを持ち込み、テスト。見事、大音量で迫力ある映像と音響が広いカフェ会場いっぱいに広がりました。
６時。映画「日本と原発」。参加者５０人弱。２時間１５分と長い。しかし、ほとんどの方は、寝ずに見入っている。わかり易い。
そもそも、単なる蒸気タービ ンを回すにすぎないのに、まるで近代文明の結晶のような扱い。もんじゅも六ヶ所村も、失敗し続け、世界的にももうどこもギブアップなのに、原発はまるで、

資源の無い日本の救世主、永久運動可能エネルギー、環境に優しいエネルギーのようなまやかし。しかも、世界で最も地震リスクの高い日本での多くの原発保有。隠された意図は「核兵器製造・保有の権利確保」。ちなみに、神戸の震災の反省で、この２０年間、地震学は必死に日本全国を調査し、活断層を見つけてき た。しかし、全く予期せぬ場所で、立て続けに地震が起こる。福島の原発の暴走は、「想定外の津波による外部電源喪失」と、３・１１直後からアナウンスされ 続けている。しかし、私自身、原発作業員だった避難者からは、「いえ。地震直後にすでに放射能漏れで、大変危険なレベルを示していました」という証言も聞 いており、また、この映画でも、その立証を図った方の話もある。

また、女川原発でもあと８０センチまで津波に襲われ、福島第二、女川とも、外部電源喪失で、唯一稼動した非常用ディーゼル発電機の残り１機で助かったということは周知の事実。静岡の原発では、 ２０m近い津波防護壁を建設中。でも、東海トラフでは、最大４０m超の津波も想定される。事実、今回の東日本大震災で、３０mを超える津波に各地が襲われ た。日本の原発の危うさは、ドイツ流でいえば、「倫理」に反することを根本に据えないこと。

その理由は、エコノミックアニマルとかつて揶揄され、歴史的な 国家犯罪の反省を主体的、論理的に思考することが出来ない国民性なのか、それとも、日本経済の６割に影響を及ぼす、という官民労政界一体の原発村の実態が いかに日本を覆っているか・・・。靖国、領土問題大好き、愛国者安倍さんの演説もここかしこに登場。

すでに「国破れて山河無し」普通なら「日本の領土、国 民を侵害した」と怒り心頭なはず。が、「神聖な神代からの国土」の一部を欠損してしまったのに、「アンダーコントロール」され「安全な福島」「世界でも最 も厳しい規制基準」などと嘘つきまわるのは、学校の「道徳」の時間で糾弾されなければならない。

最後に、新垣さんの音楽が流れ始め、苦労して持ち込ん ＹＡＭＡＨＡスピーカーから会場一杯に響きわたる中、全国５４箇所の原発が全て映し出れる。それを参加者たちは、じっと目を凝らして見ていた。終わってか ら３人の方から、「これを高校生たちに見せたい」「仲間達と上映会をやりたい」などとＤＶＤレンタル申込先などについて尋ねられた。

③「交流会」―　　午後８時１５分～９時頃

（ワンドリンク【アルコール２００円プラス】+オードブル＋軽食　１５００円。追加オーダ制）　　。

８時半。交流会。参加者３０人強。１時間の短時間だが、初対面同士も会話が盛り上がり、催促されるまで宴は続いた。気づくと、壁ガラスには、「和光市３・ １１」イベントで対談して頂く詩人宮尾さんの「福島に学びます」という詩が貼られていた。そして、「和光３・１１」コンサートのチラシは全部無くなり、足 りなくなって、チケットも６枚売れた。

《2月28日～3月1日　南相馬・相馬の仮設住宅訪問》

２月２８日（土）

午前４時起床。この日のために冬用タイヤに履き替えたのだが、雪は降らない。不要だった。

常磐自動車道、今日まで終点の常磐富岡 IC 近く。線量は高く、高速道路の両側に広がる山あいの平地には、除染で出た汚染物質を入れた黒いトン袋は、いたるところ。

常磐富岡ＩＣからは下に降り、国道 6 号。両側は立ち入り禁止のバリケード。昨年９月開通して半年。「便利」さと引き換えの「汚染覚悟」。トラックや商用車だけでなく、マイカーの往来も間断ない。「見えない危険への慣れ」。ガソリンスタンドの価格表示は、2011 年３月 11 日でとまっている。第１原発近くを通過。浪江から小高へ向かう国道 6 号のすぐ脇に、津波で打ち抜かれた建物がいまだ点在。

①南相馬市　小池長沼仮設住宅（２００世帯）

１１時、南相馬市の小池長沼仮設住宅着。
１時より、「足湯隊」が順番に参加者の足をお湯に入れ、軽くマッサージ。
順番待ちの参加者と「昭和の懐かし歌謡・ 童謡」合唱。
これまでの私たち「３１１　有志」単独のイベントと違い、会場は常にざわついている。なので、チェロはもう一人に任せ、参加者と一緒に座って、大声で歌唱指導。すると、モテモテ。名前を教えろ、名刺はあるか。また来てね。終わってからも数人が分かれがたく立ち話のお見送り。
５時、相馬ステーションホテルチェックインのあと、夕食へ。地元の通りすがりの人に教えられた「地元の人がお勧め」の台湾料理店へ。これが全くの大当たり。どの料理も美味く、紹興酒も進む。そして会計も安い。
８時近くに終わるも、２次会はホテルの一室で、また２時間。疲れた～。

３月１日（日）

コンビニで朝食を買い、松川浦で駐車し、車中で食べる。遠くにもうもうと白煙を噴き上げる原町火力発電所。手前には、津波で打ち抜かれた２階家。あちこちで塩害の田畑の復旧工事中。

②相馬市　大野台仮設住宅内高齢者等サポートセンター（周辺９箇所の仮設住宅用）

９時すぎ、相馬市　大野台仮設住宅内高齢者等サポートセンター。ここには、９つの仮設住宅に、小高、浪江、相馬、原町などの海辺の津波被害者から２０ｋｍ 圏内の山側の放射能避難者まで幅広く暮らす。その高齢者サポートを行うセンターでの昨日同様のイベント。

午前２時間、昼食休み１時間。昨日昼、今朝に続 き、３回目のコンビニ弁当。

午後の部２時間。

その後、１時間、「３１１　有志」の「和光３・１１つながりカフェ」での 30 分の「懐かし歌謡・童謡」の合唱曲選びや、次回東北訪問。５月下旬に決定！一日目は、おそらく三陸海岸。２日目は、福島県中通りか、浜通り。

５時すぎ、線量がこれまでの国道６号の０．１からいきなり０．３２の鹿島ＩＣから常磐道。３時に開通した浪江ＩＣから富岡ＩＣを抜け、友部ＳＡで夕食。最 大値は、浪江町通過。１．４１．その後、断続的に上下。道路公団設置モニターでは、５．２を示す。雨が激しい中、今日オープンの楢葉ＰＡへ立ち寄る。帰宅 は 10 時。眠たい。

《　5月30～31日　雄勝・二本松キャラバン》

5月３０日（土）

朝７時半、南浦和駅で、磯子と下北沢からの女性２人を乗せ、１２時に石巻河南インター隣の「ニトリ」駐車場で、２人の仮設直行の一台を除く全員が集合。石巻市民交響 楽団団長夫妻もいる。
　それから、女川へ。穏やかな万石浦を通過。１０００チェロメンバーに月曜に案内頂いたばかりの地域医療センターへ。歯科医師で石巻市民交響楽団副団長の木村さんに、またもご案内頂き、仮設カフェのママと挨拶、その夫は、土日だけ、新女川駅前で、キッチンカー。

３・１１前は、病院の下で、カフェをやっていた夫妻。全て津波に流され、まだ採算には乗らないが、赤字でも、動くこと、町で店を開くことが大事、と。２０１１年３・１１以降は、アフロで病院の駐車場誘導係をやっていて、知り合った。

①雄勝森林団地仮設住宅　集会所　午後２時半開演

（入居者数３３戸）宮城県石巻市雄勝町雄勝原３９

１時半すぎ、全ての建物が消えた石巻市雄勝の「森林公園仮設」集会場へ。今回、支援イベントがダブり、別なボランティア団体が、「昼食バイキング」、指圧や指ほぐし、カラオケなどで盛り上がっているところへ「参入」。まずは、この食事を我々も頂く。美味しい。聞けば、神戸の震災のときに本町のボランティアセンターに駆けつけた学生らの２０年後。
なので、「ほんまちネットワーク」。皆、まだ十分若い。

２時半、なんと、今回、石巻市民交響楽団団長はコンバス、奥さんは、ヴァイオリン、副団長はフルートで演奏参加頂き、会場に は、これまたなんと、石巻合唱連盟の山田先生が駆けつけて頂いた。皆、「和光３・１１」へお越し頂いた方々。
こちらのイベント開始。すると、先の団体は、撤収作業の手を休め、一緒にタンゴまで踊って、盛り上げてくれた。お返しにこの 「ほんまちネットワーク」全員写真をプレゼント。

先の団体が帰り、こちらも佳境に。パントマイムで風船を膨らます。ホントに風船が割れる！錯覚。アナ雪も、雄勝音頭も今回初。まあまあの出来。４時終了。
終ってから、あちこちで参加者と我々と名残を 惜しみながらの立ち話。車で仮設を出ようとすると、１０人近くの女性たちが、並んで、笑顔で「また来てね～」と手を振られ、皆、感動した。
帰り道。１００％津波で建物が無くなった雄勝に、せめて町民たちが、少しの間でも、くつろげるように、と、最も車の通るＴ字路のかどに、「薔薇ガーデン」が、ちょうど、咲いていた。
（巻末に「雄勝ローズファクトリーガーデン」とは？）

②土湯温泉「ニュー扇屋」　午後６時すぎ　チェックイン

福島県福島市土湯温泉町下の町 18　　TEL 024-595-2014

７時半、福島の土湯温泉、行きつけの「ニュー扇屋」到着。玄関をくぐると、若女将が出てきて、いきなり涙が溢れる。ん？すると、昨年１１から入院していたことは聞いていた会長、つまり父が、４月２４日に肺炎で亡くなった、というのだ。
私のチェロを見たとたん、２年前、ロビーでタンゴの熱烈な愛好者だった会長が歌い、我々がタンゴを伴奏したことを思い出したのだ、と。入院中も、亡くなる間際まで、また葬儀でもタンゴを流し続けた、とも。遅い夕食の会場に若女将が挨拶に来て、改めての報告とお礼。全員で、「献杯」。夕食の種類と量が多すぎ、満腹で、お酒がすすまず。

5月３１日（日）

朝４時からひとり、新聞などもって、ゆっくりぬるい露天風呂。すると、５時に２人が来て、１時間語り合い、計２時間、茹で上がる。湯冷ましに、１時間、散歩。が、土湯温泉の名物、「地熱発電」施設には、今回も行けなかった。

７時半、朝食。夕食についで、量が多く、食べきるのに、皆必死。そして、８時から、館内放送が流れ、「ただいまからロビーでタンゴの演奏があります、」

大女将、つまり会長の奥様からの前日の急な要望。

開始前、集まった客や従業員に、会長との出会いや思い出、そしてこの突然のコンサートの主旨を話す。そして まず、「黙祷」。その後、３曲のタンゴを演奏後、２年前に会長が歌った「カミニート」、そして最後は「さらば、友よ」で締める。

若女将がお礼の挨拶。「私は、両親がタンゴが好きで、踊ることも知っていました。でも、あの２年前に、初めて歌う声を聞きました。」。

終ってから、観客へ、６月の「安積フィメール コール東京」の「ふるさと福島に寄せて」コンサートチラシを配布する。すると、なんと、演奏中涙ぎんでいた４人組の女性のひとり「私、安積女子合唱団の出 です。」と名乗り、またもうひとりの方は、「私の主人は石巻日赤の医師でした。定年になり、今は地域医療のクリニックを石巻で開業してます。」。

う～ん、 偶然。８時半、出発しようとすると、大女将からは、１３人分の売店で売っている名物品の数々を入れた袋を渡され、また若女将からは、「父からです」と「あ りがとう！」と書いた封筒、そして、上智の同じクラスからの支援カンパの一部、との封筒を渡される。いずれも、現金が。そもそも、会計のときに、前日の ビールが２本、日本酒２本しか計算されていない。あの１０本程度の乾杯ビールは、「サービス」だった。「おもてなし」も度が過ぎる。でも、２０１１年以来 の付き合い。互いに暖かい、熱いものを感じ、お別れした。

① 杉内多目的運動広場仮設住宅　集会所２　午前１０時開演

福島県二本松市西勝田字杉内２３５

《浪江町からの仮設避難者》入居世帯数１３７戸、入居者数２５３人

１０時。１００世帯以上暮らす杉内多目的運動場仮設。だが、集まったのは、数人。自治会長は、親が入院しているので、と挨拶すると、いなくなった。また、開始前にあちこちで立ち話していた男性と雑談し、誘ったが、見えなかった。
しかし、１０００人チェロの女川での３人の観客の「結果良し」と似て、とても、楽しいイベントになった。主役は、８０歳を「とうに過ぎた」、足腰も曲がって、一見、立って歩くのも大変そうなおばあちゃん。歌の合間のタンゴが始まり、ダンスレッスンが始まると、かぶっていた帽子を両手でくるりくるり回しながら、立ち上がった。「どじょうすくい」！の単独飛行。表情がまるで童女のように天衣無縫。両手の指先まで神経が行き届く。一同、爆笑。
１１時半に終わり、 撤収作業が終って、帰ろうとしたら、まだ表で待ってってくれた。笑顔も素敵な可愛いおばあちゃん。「また来てね」「忘れないでね」を繰り返していた。

②杉田農村広場仮設住宅 談話室　午後１時３０分開演

福島県二本松市七ツ段 128

《浪江町からの避難者》入居世帯数 57 戸、入居者数 113 人

二本松駅隣の「浪江焼きそば」を覗くが、やはり混雑。１３人が３０分で食べ終わることは無理なので、駅前のコンビニ弁当へ切り替え。１時、杉田農村仮設へ。ここは、２年前、「朗読」「講談」メンバーと来たことがある。午前中のプレハブ風仮設と違って、木造風仮設。世帯数も４分の一程度。到着すると、なにやら子供たちが大騒ぎ。見ると、すぐそばで捕まえた、という青大将。マム シなどもいるらしい。
さて、１時半開始。参加者は、 １０数名。やはり、自治会長のリーダーシップが大きい仮設ほど、行き届かず、またコミュニティ形成が進んでいない。その点、ここのように、３０世帯程度の仮設は、どこへ 行っても仲良しグループが出来ていて、２０人前後集まる。珍しく、子供たちが数人。なので、アナ雪、アンパンマンなど演奏。さらに、午前中は、「ういろう売り」の早口言葉 を演じたかと思えば、今度は、子供もいるので、と、「蝶々を捕まえる」パントマイム。
ＢＧＭは、楽譜無しで即興の「パリの屋根の下で」。途中、どこでも定 番、の曲当てクイズで場内爆笑、「青い山脈」にあわせた軽体操なども交え、３時終了。
南浦和に、３人を送り、８時半帰宅。

６月２９日（月）

《7月「被災地体感ツアー2015－相馬野馬追見物―」下見》

６月２７,２８日の石巻市民交響楽団「ファミリーコンサート」参加の翌日朝７時半、夜の刺身とビール差し入れ頂いたお礼をしに、魚屋さんへ。津波で店１階が水没したので、いよいよ隣に「新店舗」を建設中。それから、川沿いの裏道で、景色を撮っていると、「昨日はお疲れさま」とオケ団員が自転車で通りかかった。石巻信金融資の方。やはり、中小零細の事業者支援に苦労の 日々。立ち話でなく、今度、ゆっくりお話をお聞きしたい。

９時すぎ。７月下旬に「野馬追」体感ツアー３０余名を引率するための下見にまず、相馬市の中村神社へ。ここでの７月２５日出陣式は見られないが、居合わせた神主？に沢山の由来やエピソードなどお聞きし、大変参考に。中でも驚いたのが、この騎馬軍団の強さがなにゆえか、のエピソード。相馬家の重臣、門馬 家の一族が、強大な隣国、伊達軍の侵入を阻止する強固な城作りを設計し、城が完成すると、殺された、と言う話。万一にでも、城の設計が敵の間者に漏れるのを恐れ、また本人も死を承知での「奉公」。なので、今も、「行列」では、相馬家の長男と次男が毎年交代で「藩主」を演じ、普段、町で会っても、挨拶は 「殿」！行列は、武士の威厳を示すための「軍事パレード」であり、笑顔、眼鏡禁止、観客は２階や陸橋から見下ろすこと禁止。それにしても、いたるところに 「馬」づくし。

１０時半、「かしまの一本松」見学。「陸前高田の一本松」とは比べて、色々相違点はある。この松の裏手、高台で避難所だった神社も津波にのまれ、氏子４６ 名が亡くなった、という。同じ福島の海岸でも、第１原発以北お、いわき方面の以南では、津波の高さが全く違う。少し奥へ行くと、鹿島の火力発電所が遠方に。

１１時半、南相馬市、市役所観光交流課へ。７月２６日の駐車場所、「行列」の見物場所など色々親切に教えて頂く。そして、昼食のお勧めを聞くと、常磐道に新設され、町がバックアップしているＰＡ「カデッセかしま」を勧められた。

早速行く。人形やビデオを見て、昼食は「浪江焼きそば」。食べ終わると、相馬焼きの皿に、馬だらけ。駐車場に戻り、線量を測ると、「０．６９」。ヤバ！子供たちが遊んでる。

常磐道で富岡町へ。徐々に線量があがり、双葉町で、３．１７まで急上昇。そしてまた徐々に下がり、富岡ＩＣを出ると、０．７へ。それでも高い。そして、町へ向うと、いたるところに黒い「トン袋」の山、山、山。

以前に比べ、各店ごと、自宅ごとの除染で、庭などにも「トン袋」。「帰還」を急ぐ政府の方 針。だが、持って行き場が無い。

そして富岡駅に久しぶり。すると、駅前の商店街は、岩手県や宮城県、それに福島県でも、２０ｋｍ圏外の小高以北では、もう見られない「津波被害」の当時の ま ま。ただし、流されたマイカーが駅前や線路にあった駅舎は全く無くなっていた。

代わりに、汚染ゴミ焼却の「仮設焼却炉」が馬鹿でかく駅の先に。これがどんなものか、は以下記事。ともかく、３０万トン以上の膨大な汚染ゴミ（中にはゴミではない財産、貴重な想い出の私物も）を中間貯蔵施設での一時保管とこの 焼却も、未だ浄化設備がフル稼働できない汚染水処理も、「早期帰還（賠償金打ち切りー経費削減策）」ばかりを急ぐ政府の犯罪性が福島県民にははっきりと印 象付けられ、福島民友新聞によれば、安保法制や沖縄対応なども無関係ではないだろうが、内閣支持率は３０％を切った。全国の支持率の半分程度！

富岡町仮設焼却炉完成だが――除染ゴミ処理のメドたたず

2015 年 4 月 17 日 12:36 PM

富岡町の仮設焼却炉。２機あり、各 250 トン／日の処理能力をもつ。（撮影／中村ゆうき）

３月 19 日、福島県双葉郡富岡町で仮設焼却炉の火入れ式が行なわれた。本格稼働は４月だが、年度内に動き出した形だ。現在、福島県内では災害廃棄物や除染 廃棄物などを処理するための焼却炉が次々と建設されている。その数は地元調整中のものを含め 19 にも及び、富岡町焼却炉の処理能力は５００トン／日と最大 規模。50 万都市のゴミ焼却炉と同等という施設群が富岡町仏浜・毛萱地区を独占し、周囲には除染ゴミの入ったフレコンバッグが山積している。

富岡町の廃棄物総量は 30 万トンと想定され、そのうち 22・5万トンの可燃物を２年後の２０１７年３月までに焼却するとしている。焼却灰は、放射線濃度が 10 万 Bq／kg 以下のものは町内のエコテッククリーンセンターにセメント固化後、埋め立て処分される。一方、10 万 Bq／kg 超のものは中間貯蔵施設に 搬入されていく。ゴミ焼却後のバグフィルターで捕集された飛灰は 30 万 Bq／kg 超が想定されており放射線濃度は非常に高く、その量は除染により生まれた ゴミの量次第となる。この点を、環境省担当課に確認すると「（焼却する除染ゴミの量は）

正直読み切れていない」と回答。さらに、焼却せず中間貯蔵施設に直 接搬入する土ごみは廃棄物総量30万トンの中に含まれず、その量は焼却される草木ゴミの14万トン以上とされるが「中間貯蔵施設への運搬事業は今のところ 何も決まっていない」（同課）。
総事業費６００億円で焼却事業を受注した三菱重工や鹿島建設は、焼却灰保管までは請け負っているがその後は管轄しない。中間貯蔵施設への搬入が直ちに始ま る訳でもなく、汚染土壌や焼却灰が富岡町にいつまで保管されるのかは不透明なままだ。富岡町の宮本晧一町長は「待ちに待った施設で、復興の加速化の一翼を 担うことを期待したい」と火入れ式で話した。町長は２年後に町民帰還を目指すとしているが、除染ゴミの処理が間にあわないのは目に見えている。
（中村ゆうき・フリーライター、４月３日号）

国道６号線に戻り、楢葉町と広野町の第２原発、Ｊビレッジ前を通過。それから海岸線の道を走り、両側が松並木の海岸線が残る新舞子浜を南下、「かんぽの宿」で、近所に住む同行した仲間Ｋさんの元の職場の先輩と落ち合い、周囲を案内頂く。

まず、極めて珍しい沼に生息する「うなぎ」が天然記念物、の神社へ。 ３・１１以降の原発風評で、それまで来ていた大型観光バスの立ち寄りが全く無くなってしまった、という。

その後、いわき市内で最も津波被害の大きかった「薄磯地区」を通過。何度か来たが、今回、わずかに残り、解体準備中の学校を除き、これまでの壊れた建物や 土台などの痕跡は全くなくなり、重機やダンプが行きかう「土地整備」中。７月２５日にマイクロバスで「体感ツアー」を案内する場所なので、有難かった。な にしろ、あちこちの道路が工事中で、カーナビがきかず、ここでは、何度か迷ったが、もう大丈夫。

次に、いわき市内３５箇所に約２万人の避難者が暮らす仮設住宅の中でも、１０箇所が集中する「高久地区」へ。以前、ここの「高久第８」や「高久第１０」に は「３１１　有志」合奏団でお邪魔したので、部分的には知っていたが、ゆっくり全体を見たのは初めて。いわき駅までは３０分以上かかる不便さはあるもの の、広大な山を切り開いたどの家も意匠を凝らしたデザインの「高級住宅街」の中に、楢葉町や広野町などの仮設、それもプレハブだったり、木造だったりが、 点在。「旧住民」と「避難者」の住環境の違いは歴然。それが背中合わせ。

ただ、広大な「いわき公園」に隣接し３・１１以降の公園や運動場がほぼ全て仮設住 宅が建てられ、使用できなくなったものの、「旧住民」が「自然」と親しむ環境が失われたわけではないことに少しホッとする。
このあと、案内頂いたKさんの広大な農家のご自宅を拝見、ご自身の３・１１体験やこの周辺の津波で一時使えなくなった農地の話などを伺い、お別れ。

私たちは、さらに、７月２５日の夕食場所、マリンタワーのレストラン「メヒコ」で、「試食」＆「店との打ち合わせ」。でも、以前にも来たのに、この店の下の駐車 場が分からず、遠方にと車を停めてしまい、やはり、「下見」は重要。さて、当日、３０人余りが午後６時に入ると、店の半分のスペースが埋まる。そして、そ の場でのバラバラの注文は厨房が混乱するので、事前にメニューから選んでもらうことにした。もちろん、ここの代表作、「カニチャーパン」と「カニグラタ ン」を二人でシェア。おいしゅうございました。帰りにマリンタワーを見上げると、なにやらエヴァインゲリオンを思い出した。あとは、一気に常磐道。３時間 で帰宅。ふ～。

《「311　有志」関係者イベント》

６月１２日（金）神田京子独演会

２０１１年夏の宮城県亘理でご一緒して以来お付き合いしている講談師。
２時、「空間リバティ」で、ファン倶楽部メンバーサービス独演会。
いつものように熱演。英語版「浦島太郎」、そして、南米に３週間クルーズのエンタテイナーとして乗船してきた経験から、アルゼンチンの伝説「エビータ」物 語。オリジナルの新作。京子さん、歌が上手い。「ドントクライフォーミ～アルゼンティーナ～」と歌っているとき、グッと来た。昔、ブロードウエイで、また その後劇団四季で、ミュージカルを見たシーンが蘇る。が、まだ何度か語っていくうちに、作品が練りあげられるので、まだまだ手が加えられるよう。
２０１３ 年に神田京子さんと一緒に「気仙沼大島体感ツアー」に参加したメンバー３人も来たので、終ってから、男４人で、またケーキセット。

６月２７～２８日　石巻市民交響楽団ファミリーコンサート

６月２７日（土）ファミリーコンサート初日

午前５時半、ヴィオラのKさん、八王子からマイカーで我が家へやってきて、その車を我が家の車庫に入れ、私のマイカーで、いざ石巻へ。途中、朝食は 「白河ラーメン」。

１０時半、石巻市立開北小学校体育館到着。激しい雨に客足が心配された。しかし、３時開演になると、用意された椅子はほぼ満席。なにより、最前列の赤じゅうたんには、幼児！や子供たちが沢山が嬉しい。まさにファミリーコンサート開始！
塩竈の老舗和菓子屋１１代目兼劇作家の司会。絶妙なとぼけた話術で、会場を沸かせ、また、あるときはオペラ座の怪人に、またあるときはカリブの海賊に、ま たあるときは、駅長さんに扮する大活躍。

休憩時には、「楽器を触ろう」。これまた７０歳から小学生まで、様々な楽器に挑戦。私のチェロにも、入れ替わり 「志願者」。恐る恐るも、すぐに慣れ、「音が出た！」と感動！
後半も、会場から９０歳から小学生までの希望者の「青きドナウ」の変則指揮に会場大笑い。しかし、本物の指揮者も負けていない。最後に、楽天で買い揃えた「ふなっしー」の衣装で、ふなっしー語連発、大はしゃぎの指揮。外の雨も忘れ、大盛り上がり の２時間はアッというまでした。終ると、今年３月和光３・１１コンサートに参加頂いた石巻合唱連盟事務局の方々が挨拶に見え、石巻オケ団長とパチリ！片付 けし、ホテルへチェックイン。持参した４０度の焼酎にあえなく９時半にはダウン！

２８日（日）　ファミリーコンサート　２日目

午前５時からのなでしこジャパンの劇的勝利を見届ける。
１０時半、塩竈、壱番館「遊ホール」。練習も、昨日本番をやったので、ポイントを絞る。さて本番。会場は６割の入り。

今回は、指揮を希望、の中に、赤ちゃんをダッコしたお母さんも。

また、楽器を触ろう、では、「私、コントラバスがやりたいんです」という中学生に、「楽器は高いから買ってあげられん。」と母 親。前日に引き続き、大いに会場も沸き、リラックス。
終って、また顔見知りの方々とご挨拶。そして、打ち上げへ。

打ち上げ。２日間の「激闘」も、達成感で皆明るい。
そして、回収した沢山のア ンケートを飲みながら回覧。これが面白い。多くの方が「大変良かった」。「普通」以下は皆無。その中で、指揮をした、９０歳の方のビッシリ記入のアンケートや、小学生低学年の娘さん とお母さんの共同回答、それに、子供たちのオケ出演者のイラスト、などそれぞれ味がある。「こんな素晴らしいファミ リーコンサートは、プロでも出来ない。石巻オケは凄い」とコンマス挨拶。私もエンタテーメントとして見事と同感！
最後に、元銀行員のヴァイオリン団員、数 日後、コロラドへ留学のため、お別れの挨拶。皆で胴上げ！終ってから、ホテルに戻る。

そこへ、ヴァイオリンの魚屋の女将からの「刺身各種とビー ル」差し入れを手に、まるで元銀行員君と入れ替わりに入ってきたかのイケメンヴァイオリン団員とコンサートの手伝いをしてくれた美しい友人が部屋に来てくれ、改めて乾杯！実は、この二人、私が岩手県で行っている「仕事」とほぼ同業者だったことが判明。石巻での「６次化指導」「中小零細企業支援」。音楽から 離れ、どうしてこのボランティア的な「仕事」をその若さでやっているのか、二人にお聞きし、なるほど、と納得。今後情報交換することに。